

## 平成20年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

|     |  |            |  |
|-----|--|------------|--|
| 事業名 | 病院勤務医をサポートする「医師事務作業補助者」育成教育プログラムの開発およびその実践 |            |  |
| 法人名 | 学校法人 片柳学園                                  |            |  |
| 学校名 | 日本工学院専門学校                                  |            |  |
| 代表者 | 理事長 片柳 鴻                                   | 担当者<br>連絡先 | ITカレッジ情報学科 科長<br>野田 雅司<br>03-3732-3111 |

### 1. 事業の概要

本事業では、「医師事務作業補助者」の育成教育を専門学校で行うことを目的として、医療機関が求める医師事務作業補助者の実態を把握し、人材像を明確にするために、全国の医療施設から850件を抽出してアンケート調査を行った。

また、かねてから医師事務作業補助者(医療秘書)を配置し、成果を上げている医療機関を訪問し、医師、管理担当者、事務作業補助従事者などから直接お話しを伺うヒアリング調査を行った。

調査の結果から、医師事務作業補助者育成にあたって重点的に行うべき教育は「文書作成能力」と「代行入力」であること、それを実現させるためには今まで以上に幅広い医学知識、医療用語の知識が必要であることが明らかになり、これらを網羅した育成指針、カリキュラム、シラバス、サンプル教材を開発した。

さらに、開発した教材をもとに教員研修会を開催し、現状の医療事務教育との違いや、強化・追加するべきカリキュラムについて話し合い、文書作成・代行入力に関する教育が重要なキーワードとなることを確認した。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

本事業の目的は、文書作成業務など診療外の業務で多忙を極め、疲弊している病院勤務医をサポートする人材である「医師事務作業補助者」を今後専門で育成していくために、求められる人材像を明確化し、教育すべきカリキュラム・シラバスの開発と教材を開発することにある。

病院アンケートやヒアリングの結果から、医師事務作業補助者が持つべきスキルとして「医療用語」、「医学知識」、「文書作成能力」を挙げる意見が多かったこと、ベースとしては医療事務系の教育が想定されることがわかってきた。

このことから、現行の医療秘書系学科等で行われている現行カリキュラムに対して、強化したり追加すべきカリキュラムを検討するための「育成指針・カリキュラム・シラバス」、現時点での提案事項を盛り込んだ「サンプル教材」を開発、引き続き検討を重ねていくための材料として取りまとめた。

#### ②事業により得られた成果

医師事務作業補助者が持つべきスキル・経験・資質として、今回行った病院アンケートやヒアリングの結果から明らかになったことは、「医療用語・医学用語の知識」があり、「医療事務の知識」があり、「パソコン操作スキルが高い」人材であることがわかった。現場の医師からの要求レベルは「何でも知っているスーパーマン」であるが、現実的にはあくまで“補助者”であるため、「医師の話す医療や医学の用語を正しく理解し、入力できる」ことが重要であることがわかった。

今回開発したサンプル教材は、医師事務作業補助者が持つべき知識やスキルの概要を網羅的に示したものであり、文書作成や代行入力を本格的に学ぶためには、多数の演習問題や文書作成事例が必要となる。文書作成といっても、ワープロでビジネス文書を作成するわけではなく、電子カルテやオーダーリングシステム、診断書作成・管理システム上で行うことが前提であり、こうした演習を行うためのシステムも必要となるため、これらの開発が急がれることが確認された。

### ③今後の活用

本学園において、平成22年度を目途として医師事務作業補助者(医療秘書)を育成するためのコースを設置する予定である。また、既存の医療系コースにおいても、開発した教育システムの授業展開を行い、医療従事者としてのスキルを高めることとしたい。さらに、本事業に協力する専門学校、企業が一体となり、先駆者的な態度で他の専修学校へ啓蒙を図っていきたい。

### ④次年度以降における課題・展開

今後医師事務作業補助者を育成するにあたっては、最終的な到達目標として高いレベルを目指すことはもちろんであるが、学生や若年離職者など未経験者への教育を考えた場合、現実的な到達目標を段階的に示し、徐々にステップアップさせることも考慮する必要がある。学校から送り出すにあたって最低限必要なレベルはどこか、エキスパートとして活躍するためには何を付加するべきか、引き続き調査・検討を重ね、専門学校における医師事務作業補助者育成教育を確立させていきたい。

## 3. 事業の実施に関する項目

### ①ニーズ調査等

事業を進めるにあたり、以下の調査を行った

(1) 医師事務作業補助者実態アンケート(病院アンケート)

実施時期:平成20年9月10日～9月30日

(9月10日調査票発送、最終集計10月23日)

調査対象:

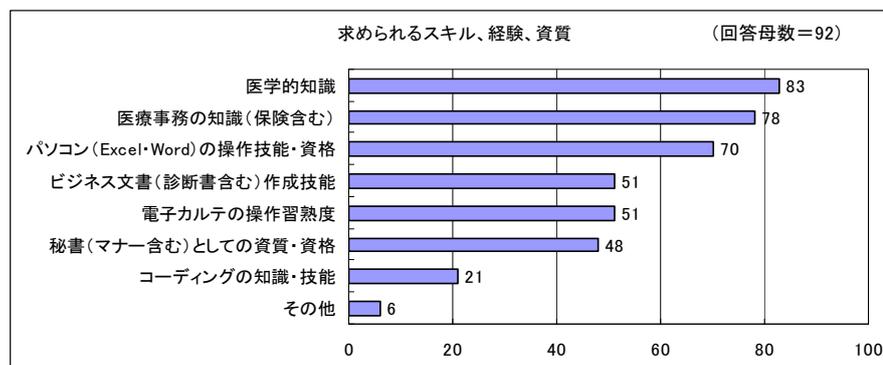
医師事務作業補助体制加算の要件を満たしている、電子カルテ又はオーダーリングシステムを導入済みの急性期病院(緊急もしくは重症患者を中心に、入院および手術等、高度で専門的な医療を24時間体制で行う病院)とし、全国の医療施設から850件を抽出してアンケート調査票を郵送、ファクシミリでの回答を依頼した。

回答数:257件(30.2%)

調査内容:

- ・電子カルテ、オーダーリングなどのシステムの導入状況
- ・医師事務作業補助体制加算の算定状況
- ・医師事務作業補助者の業務範囲・内容
- ・人材像と育成の状況

257件の回答のうち、医師事務作業補助体制加算を届け出済の医療機関92施設に対して、求められるスキル、経験、資格について聞いた結果は以下の通りであった(複数回答)。



最も高かったのが「医学的知識」で83施設(90.2%)、次いで「医療事務の知識」が78施設(84.8%)、「パソコンの操作技能」の70(76.1%)と続く。

従事者の方の感想としては、医師事務作業補助者からは

「やりがいを持つ反面、大変さを感じている」  
「患者と医師のパイプ役となり、今までの医事よりも責任感とやりがいが増した」、

医師からは

「事務作業の軽減はとて有り難い」  
「事務作業が増えるばかりで配置がさらに拡大するよう、診療報酬の評価を引き上げてほしい」  
などの声が寄せられた。

## (2) 医師事務作業補助者ヒアリング調査(病院視察)

以下の8つの医療機関を直接訪問し、医師、医師事務作業補助従事者、事務管理者からお話を伺った。

- ①長野県厚生農業協同組合連合会 佐久総合病院  
平成20年10月9日(木)
- ②社会福祉法人恩賜財団済生会 埼玉県済生会栗橋病院  
10月17日(金)
- ③社会医療法人愛仁会 高槻病院  
10月23日(水)
- ④一部事務組合下北医療センター むつ総合病院  
11月18日(火)
- ⑤特定医療法人財団大和会 武蔵村山病院  
平成21年1月16日(金)

訪問先で伺った様々なご意見や人材に対する要望事項として、この業務にあたる人材は、治療の流れをカルテから読みとる能力が要求されるため、医学や薬学、病名などの知識とコンピュータの操作スキルが欠かせないことがわかった。

医師事務作業補助者は、「事務能力と医療の知識を兼ね備えた人材」と定義されるが、まだ職種としては新しく、保険点数の加算体制も始まったばかりである。上記調査の結果からも、求められる能力、範囲はまだ確立されているとは言えず、各医療機関は現時点ではまだ独自の判断と基準によって運用していることがわかった。

## ②カリキュラムの開発

調査の結果、医師の立場から要求されるレベルはかなり高く、治療行為を行わないだけで医師と同等の知識とコンピュータスキルを合わせ持つ「スーパーマン」的な人材になってしまうが、実際には「文書作成」、「代行入力」が主要な業務となることがわかってきた。

また、「医療知識」、「医学」については、医師の用いる言葉を“理解できる”、“正しく入力する”ために必要なレベルの知識を幅広く身につけさせる必要があることがわかったため、今年度は以下の2点の開発を行った。

### (1)「医師事務作業補助者育成指針・カリキュラム・シラバス」

専門学校の医療事務学科、医療秘書学科、病院管理学科、診療情報管理学科、医療情報システム学科などを対象に、医師事務作業補助者の概要と医療現場の実情を把握した上で、現行カリキュラムに対して強化・追加すべき内容、見直しや工夫すべきポイントを整理するために開発。

医師事務作業補助者として適応できる人材を育成するために、以下の3つのステップを想定した。

STEP1: 動機付け(意義、やりがい、医療現場の状況把握など)

↓

STEP2: 専門知識/スキル(医療事務などの科目を中核とした現行カリキュラムの強化、電子カルテ代行入力、接遇やマインドなど)

↓

STEP3: 総合力(専門知識に基づく実務能力、医療人としての人間性、対人関係能力など)

## (2)「医師事務作業補助者育成用サンプル教材」

医師事務作業補助者のプロフィールを理解するため、必要性や制度化された経緯、診療報酬加算の要件や基準について、関連する通達やその解釈を含めて解説。

また、「育成カリキュラム(教育科目)」として、関連法規や制度、医学知識、各種文書、電子カルテなど、必要と思われる教育科目の概要を網羅的に示した。本教材では内容の一部、あるいは概要・要点について記載し、全体構成をイメージできるものとした。

医師事務作業補助者の典型的かつ主要な業務となる、電子カルテの代行入力の実際と、診断書や紹介状といった文書作成の実際については、独立した章立てとして解説している。

### ③実証講座

今回開発したカリキュラム等の教育プログラム、サンプル教材の概要を医療事務関連教育を行っている専門学校関係者に紹介するとともに、本事業が提案する文書作成、代行入力教育に関する取り組みについて意見交換を行うことを目的として、平成21年1月に教員研修会を開催した。

日 時:平成21年1月28日(水)10:00～17:00

会 場:日本工学院専門学校 12号館2F M204教室

対象者:医療事務、電子カルテなどの教育を行っている  
専門学校教員等

参加者数:29名

北海道から九州まで全国からの参加があり、本事業への関心の高さが伺える結果となった。また、意見交換を促進することを目的としてプログラムの一部にグループワークを取り入れたが、大変好評であった。

各学校とも、新たに制度化された職種である医師事務作業補助者育成に対する興味・関心は高く、何々のレベルで教育するべきか、一つでも多くの情報を欲しがっている状況であった。

今回、一つの方向性として「文書作成」、「代行入力」に関する教育を強化すること、医療用語や医学知識については、正しく入力するために必要なレベルで幅広い知識が必要であることが提案できたことは、各学校それぞれが現状の教育を見直したり、今後目指す教育を考える絶好の機会となり、継続的な情報の提供、情報交換を期待する声も多数聞かれた。

受講者アンケートでは、92.9%の方が有意義だったと回答しているほか、以下に示す「今後の学科設置予定の有無」を聞いた質問では、概ね半数の46.4%が「ある」または「検討中」と答えている。

教育に取り組む必要性は感じているものの、何を基準として教育を行うべきか、情報が少ないためまだ手探りの状況であることがうかがえる。

#### ●教員研修会アンケートより

医師事務作業補助者の学科を開設する予定はありますか？

| 区分     | 回答数 | %      |
|--------|-----|--------|
| ある     | 3   | 10.7%  |
| ない     | 10  | 35.7%  |
| 検討中    | 10  | 35.7%  |
| 不明・未回答 | 5   | 17.9%  |
| 合計     | 28  | 100.0% |